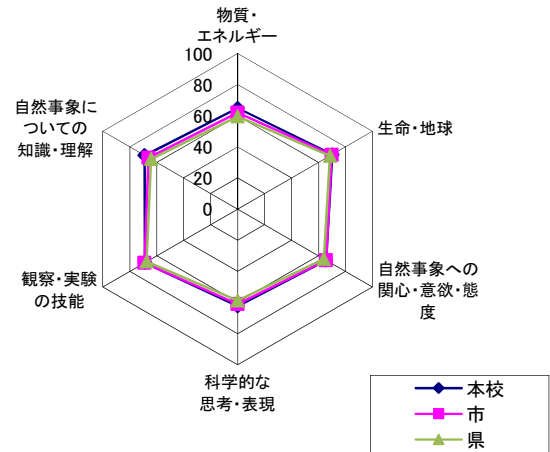


宇都宮市立宝木小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	64.9	61.9	59.4
	生命・地球	70.2	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	65.5	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	62.2	61.0	58.8
	観察・実験の技能	68.7	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	69.0	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、県平均と比べて高い。 ○「電気の通り道」の問題では、導線を正しくつないでいるものを選択し解答する問題の平均正答率は、62.4%で県平均と比べると8.6ポイント、また、電気の通り道のことを『回路』と解答する問題では、正答率が74.3%で県平均を21.3ポイント上回っている。 ●電気工事をしている人がゴム手袋や長靴を使用する理由を説明する問題の正答率が23.9%で県の平均正答率とほぼ同じであるが正答率が低く、また無解答率が16.5%と高かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 今後の指導の改善 ・電気の通り道をはじめ、領域内の基礎的知識は定着しているが、それを利用して文章を読み取り、記述する問題を苦手とする児童も多い。文章問題に取り組む機会を増やしたり、実験などを行った際に予想や結果を自分の言葉で考えさせ、友達同士で伝え合う活動を多く取り入れたりしていく。 ・応用問題などの文章問題における場面設定に慣れるために、身近なものと関連した問題に取り組ませるようにする。また、どうしてそう考えたのかを理由立てて説明できる力を育てていく。
生命・地球	平均正答率は、県や市の平均と比べてやや高い。 ○「植物の育ち方」の問題では、植物の育っていく順番を解答する問題の平均正答率が、60.6%で県平均と比べると11.2ポイント上回った。 ●「身近なしぜんのかんさつ」の問題では、ダンゴムシを観察する方法として正しいものを選択する問題で、平均正答率が76.1%と県の平均正答率を10.2ポイント下回っており、無解答率が16.5%であった。	・昆虫や植物の観察方法の知識と技能が定着していないので、より体験的な活動の時間を確保し、知識・理解・技能が身に付くよう、飼育や観察などで昆虫や植物に触れあう機会を増やす。また、その際にグループ活動を取り入れ、観察の仕方や観察器具の使い方を伝え合い互いに学び合うことができるようにしていく。